

# 「告発されない人生」 ～あなたはうまくいっていますか？～

I サムエル 16

映画の「ディアボロス」これは「告発者（悪魔）」という意味です。悪魔はあなたを陥れる人ではなく告発する人なのです。ヨブは、自分の息子が罪を犯しやしないかという不安や不信からいけにえをささげていました。このヨブを悪魔は神様に訴え、神様は悪魔に「命はとってはならない」と命以外のものをとることを許可しました。この地上の権威がアダムとイブのときから、悪魔に渡ってしまっているからです。悪魔はあなたの罪をもって、イエス様の十字架を無にします。だからあなたが罪を犯していればいつも訴えられているのです。最近、あなたのすることどううまくいっていますか。それともそうではないでしょうか。面白いことに、悪いときは何をやってもだめなのです。あなたのした種まきと刈り取りが続くからです。悪い種を蒔けば、悪い実が出るのは当たり前です。だから聖書では「あなたの最初が大切」といっているのです。途中変えたとしても、最初にどういう気持ちで始めたか、そこに罪や問題があったら必ず種まきの結果、刈り取りを得なくてははいけません。その番人が悪魔です。（Iサムエル16）この後サウルは、「ダビデは万を打ち、サウルは千を打つ」と民にいわれダビデに嫉妬し命を狙うようになってしまいました。悪魔は全地を歩き回り、告発することを捜しています。だから何をしてもうまくいく人とうまくいかない人がいます。どちらとも最終的には失いますが、何をしてもうまくいく人の中で、自分の利得のためにやらない人だけは失いません。「罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。」（創4：7）悪魔はあなたを「俺は悪魔だよ」といって誘惑したりはしません。甘い果物のようにあなたの前にやってきてあなたを誘惑します。私たちが失敗したとき、一番最初に報告しておけば小さなことで終わります。しかしその最初の問題を隠すために人は次々に嘘をつきます。そして最終的にその責任を誰かに押し付けようとする（逃避）。これがアダムとイブが最初にやった「あなたの作ったあの女が・・・」なのです。これが虚栄です。自らの立場を守るために自らの姿を麗しく見せようとするのです。自分を愛し、自分のしていることを正当化する・・・社会的な地位を任されるとそれを守るためにしてしまいがちです。サウルがそうでした。サウルは「神の霊がいなくなり、王から退けられた」と言われたにも関わらず「民の面目を立てるためにそれでもいいから一緒に帰ってください」と言いました。悪魔は過去を言い当てます。それは彼らが持っているのは知識で、特に今から少し前のことはよくわかっていますが彼らの言う将来のことは「もしあなたがこれをするならこうなる」条件つきです。しかし神様は知識と知恵を持っています。「主のおしえをよるこびとし、昼も夜もおしえを口ずさむ」（詩篇1）あなたのやることで何でもうまくいっているのなら神様と一緒にです。しかし、あなたの頭の中に考えがまわって疲れ果てているのなら、その時は神様と一緒にいないのです。神様は決してあなたを煩わす方ではありません。あなたは今、冷静に判断できていますか。だから騒がしくなると、イエス様はゲッセマネにいて悪魔に機会を与えないようにしていました。悪魔は誘惑してくるとき決して結論を出しません。結論を出すのはあなただからです。あなたの人生を変えるのは他人でも悪魔でもない、あなたです。奴隷でない限り人があなたの人生を強制することができません。しかし悪魔は奴隷にするのです。決断はすべてあなたがしているのです。人のせいにしないでください。あなたのすることで物事がきちんと進み、良い実が結ばれているかどうかバロメーターです。聖書で言う「うまく」とは結果を出すということではありません。聖書でいうのはプロセスと道です。サタンも完全を得られていないから完全を得るために誘惑し、偽キリストを作ろうとしています。エッサイは立派であろう長男から選んで差し出しましたが、神はそうではありませんでした。神の成功は人目によいことではないのです。大事なことは①偽らない。これを捨てなくてはなりません。偽りは人のためになりません。自分の心に偽らないでください。「こうしなければならない」とわかっていながら違うほうを取らないで下さい。（エペ4：25～28）②虚栄に注意。虚栄とは「もっていないのに持っているかのように言う」ことです。立場がなくなるようなことをしているのに、その立場を固持しようとするのです。それをしたのがサウルです。男性は特にこの虚栄に注意です。そして女性は偽りに注意です。感情で動くとう偽りになってしまいます。（ピリピ2：2～4）近頃は、虚栄心の塊の人が多く、実際は何もできないのにあたかも自分ができるかようになってしまうのです。自分は「大丈夫」と思っていることが虚栄なのです。誘惑されることはあるはずですが、立場を保持しようとししないでください。これが虚栄です。③破れを塞ぐ。心の中に穴があいていると裏口から入ってきます。絶望していること悩んでいること、これが破れ口です。心の破れを塞ぐのはあなたです。だからあなたは一週間で自らで振り返らなくてははいけません。人には必ず客観性が必要です。自らで自らを省みることはできません。きれいごとであろうとなんであろうとそれがきちんとできていたかどうかを考えなくてははいけないのです。罪であることを理解してそれをいかにしないようにするか、そしてしてしまったときにはダビデのようにいかに悔い改めるかが大切なのです。人には神とずっと一緒にいられない弱さがあります。神は完璧を求めているわけではありません。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。（Iサム15：22）神に従うとは、正しいことに従うということであり、まちがっていたのなら悔い改めよというのが神の命令です。罪のあるままでいてはいけません。聞き従えといっているのは悪魔に機会を与えないためです。神様は悪魔の奴隷になることを嫌っているのです。自己中心や虚栄でやっていて破れを塞がないでいると、悪魔の支配に変わってしまうのです。そうなるあなたは大切なものを失わないと神の前に帰って来れなくなってしまう。悪魔にはその権利があるのです。神はこの地にあなたに計画を持ってきました。あなたはその使命を覚えていますか。悪魔はこの使命を取りたいのです。誘惑に負けていないか、そしてそれが自らと全てを失う結果になっていないか考えてください。あなたの使命は果たされていますか。今日から、悪魔に誘惑される人生をやめて歩みましょう。（要約者：岩崎祥誉）